

怪魚のすむイタコ沼

昔から恐山はイタコがいるところとして知られています。イタコは目の見えない女の人達で死んだ人の言葉を伝えることができます。

昔々、イタコになるために厳しい修行をしていたイタコがいました。

ところが、年寄りイタコと親子のような若いイタコの二人は、修行が足りないと言われて恐山を追い出されてしまいました。

二人のイタコは農家の軒下に泊まったり、犬に吠えられたり、目が見えないので子供達に馬鹿にされたりして苦勞の旅をしていました。

野辺地にさしかかった時、仏様に導かれるようにして沼のほとりにたどり着きました。

沼からピチピチと音がしました。二人で手ぬぐいを広げてすくってみるとウナギが獲れました。二人は美味しいウナギをいただき仏様に感謝しました。

ウナギを食べて元気が出たイタコはウナギを獲って、村の人達や旅の人たちに買ってもらってお米や野菜を買いました。

村人に小さいかだ舟とウナギ籠を作ってもらいました。

年寄りイタコがいかだ舟を漕いで、若いイタコがウナギ籠を引き上げる毎日、面白いようにたくさんのウナギが獲れました。

そのウナギはよく売れるので、二人は楽しくて、面白くてウナギ獲りに夢中でした。

ある日、空が曇り嵐でも来そうな不気味な風を年寄りイタコが感じました。

そこで、

「今日は、ウナギ獲りを休みましょう。」

と言いました。

ところが、若いイタコは元気がいいので

「なんで、心配ないよ。ウナギが待っているから獲りにいきましょう。」

と言って、言うことを聞きませんでした。

年寄りイタコも一人では行かせられないので一緒に行きました。若いイタコがどんどん舟を漕いで沼の真ん中に来た時でした。

沼に泡がわき上がり、水面が渦を巻いて回り始めました。イタコの小舟はコマのように回りました。二人は必死に舟につかまり、

「怖いよ。怖いよ。」

と叫びました。ゴーと強い風にあおられるように二人は空中に舞い上がりました。沼から鞭のような二本のひげがのび二人をたたきつけました。手まりのような二つの大きな目玉がギョロロと睨み、1メートルもある大鍋のような真っ赤な口が開き、落ちてきた若いイタコをパツクリと飲みこんでしまいました。その怪魚は、沼の主で体長が4メートルもある大ナマズでした。

修行を忘れウナギ獲りに夢中になっていた二人のイタコに沼の主は怒りました。そのすさまじい怒りで叩きつけた尾ヒレで沼は大きい沼と小さい沼の二つに分かれてしまいました。

年寄りイタコは運良く助かりましたが、目が見えないので若いイタコがどうなったのかを知ることはできませんでした。沼の主の姿も見ることがありませんでした。

ただ、若いイタコを失った恐ろしい思いをしたので、心をあらためてイタコの修行をし、若いイタコを供養する旅に立って行きました。

村の人達は、突然二人のイタコがいなくなり、沼が二つに割れていたのでは、何か恐ろしいことがあったと思いましたが、誰一人として沼の主の大ナマズを見た人はいませんでした。

いつしか、若いイタコと年寄りイタコを忍び、二つに分かれた沼をイタコ沼と呼ぶようになりました。

どっとはらい